

**平成25年度教育委員会点検評価  
結果報告書**  
(平成 24・25 年度事業分)

平成 26 年 3 月  
鹿屋市教育委員会

# 目 次

I	はじめに	
1	点検評価の目的	1
2	平成 25 年度点検評価の方法	1
3	評価結果の報告等	2
4	取組経過	2
II	評価結果	
1	内部評価（一次評価）結果について	3
2	外部評価（二次評価）結果について	
	・ 事業評価	3
III	資料	
	鹿屋市教育振興基本計画施策体系図	23
	鹿屋市教育委員会外部評価委員会設置要綱	24

## I はじめに

### 1 点検評価の目的

教育委員会における事務事業の点検評価については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 27 条の規定により、実施が義務付けられていることから、地域の実情と住民ニーズに応じ、より効果的な教育行政の推進に資するとともに事務事業の管理及び執行状況についての透明性の確保と、市民への説明責任を果たすことを目的に実施する。

なお、事業の点検・評価を行うことにより、鹿屋市教育振興基本計画の進行状況等の管理を行うものである。

#### 【参考】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価等)

第二十七条 教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 2 平成 25 年度点検評価の方法

#### (1) 平成 25 年度点検評価の基本的考え方

教育委員会の平成 24・25 年度全政策事業を対象として、教育振興基本計画の施策に基づき、「内部評価」及び「外部評価」を行う。

#### (2) 評価の方法（作業内容）

##### ① 内部評価（一次評価）：事業所管課による事業の自己評価

自己評価については、事業の進捗度等に応じた 4 段階評価を行う。（対象事業：H24 年度全政策事業 101 事業）

##### ② 外部評価（二次評価）：外部評価委員による評価

###### (ア) 重点事業評価（外部評価委員会）

平成 24・25 年度の政策事業の中から重点事業を 9 つ選定し、外部評価を行う。

###### (イ) 現地視察

「かのや英語大好き事業経費」、「教育改革推進事業」に関して、現地視察を実施した。

### 3 評価結果の報告等

#### (1) 議会報告

- ①報告時期 平成 26 年 3 月
- ②報告方法 点検評価結果報告書を議会へ提出

#### (2) 市民への公表

- ①公表時期 平成 26 年 4 月
- ②公表方法 市ホームページに報告書を掲載

### 4 取組経過

時 期	作 業 内 容
7 月～9 月	内部評価（事業所管課による自己評価）の実施
1 月 26 日	●第 1 回外部評価委員会の開催
2 月 26 日	●第 2 回外部評価委員会の開催 ◎現地視察：鹿屋市立花岡小・中学校 ・小中一貫校の取組状況について ・英語指導講師による小学校英語授業状況について
	●外部評価委員へ点検結果報告（案）の確認
4 月 4 日	教育委員会定例会への点検評価結果報告

## II 評価結果

### 1 内部評価（一次評価）結果について

評価	A 評価	B 評価	C 評価	D 評価	未評価	合計
事業数	80	20	0	0	1	101
割合	79.2%	19.8%	0%	0%	1.0%	100%

※未評価 1 事業については、隔年で実施しており、平成 24 年度は未実施のため。

#### ◎自己評価基準

評価	評 価 区 分	考 え 方
A	・計画どおり順調に進んでいる ・十分成果があがっている	優れた取組や状況等が見られ、課題はほとんどなく、順調に計画が進んでいるもの。
B	・概ね計画どおり進んでいる ・成果がみえる	良い取組や状況等が見られ、若干の課題はあるものの、概ね順調に計画が進んでいるもの。
C	・計画がやや遅れている ・一定の成果が見えるが改善が必要	課題が少なからずあり、計画の進捗がやや順調でないもの。また、一定の成果はあったが課題が生じたもの。
D	・計画が大幅に遅れている ・成果が上がっておらず、抜本的見直しが必要	課題が多く、着手できていないか、着手しても殆ど成果が上がらないなど、計画が殆ど進まなかったもの。

## 2 外部評価（二次評価）結果について

### ① 評価内容等

平成24・25年度の政策事業の中から重点事業を9つ選定し、外部評価を実施した。

#### 平成25年度教育委員会点検・評価事業一覧

施策の方向性	施策	事業名	課名	ページ
次代を生きぬく学力や資質をはぐくむ教育の推進	国際理解教育の推進	①英語指導助手経費（共通）	学校教育課	P 4
		②かのや英語大好き事業経費（共通）	学校教育課	P 6
	特別支援教育の推進	③特別支援教育推進事業（共通）	学校教育課	P 8
安全・安心な教育環境と教育活動の充実を目指した教育改革の推進	学校規模適正化（学校再編）の推進	④教育改革推進事業費	教育総務課	P 10
心豊かな人間性を培う生涯学習の推進	学習推進体制の充実	⑤公民館各種講座に要する経費	生涯学習課	P 12
心の豊かさと学ぶ意欲にあふれる社会教育の充実	地域・学校・家庭が連携した教育の充実	⑥かのや学校応援団	生涯学習課	P 14
文化の香り高い心豊かなまちを目指した市民文化の振興	文化財の保存・活用・継承	⑦ふるさとかのやを誇れる人づくり事業	生涯学習課（文化財センター）	P 16
生涯スポーツ社会の実現	スポーツ活動の推進	⑧生涯スポーツ推進事業（共通）	市民スポーツ課	P 18
	スポーツ施設の整備・充実	⑨スポーツ施設設備整備事業	市民スポーツ課	P 20

**平成24・25年度事業評価シート（教育委員会点検・評価）**

事業名	英語指導助手経費(共通)				
所管課・担当係	学校教育課 学校教育係				
教育振興基本計画 施策体系	2-(2) 国際理解教育の推進				
事業目的	生徒の英語力の向上を図るとともに本市英語教育の充実に資する。また、小中高を計画的に訪問し、担任または英語教師と共同授業を行いコミュニケーション能力の育成を図る。				
目的達成 のための手段 (事業概要)	<p>6名のALTのうち、5名を中学校を中心に小学校にも派遣する。また、1名のALTを鹿屋女子高等学校に常駐させ、小・中学校へも派遣する。</p> <p>○ 平成24年度 事業概要(実績)【25,372千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ALTの雇用 報酬21,388千円、社会保険料2,777千円、労働保険料12千円、旅費699千円</li> <li>・ 英語指導等に係る消耗品 消耗品費5千円</li> <li>・ 自治体国際化協会負担金 負担金360千円</li> <li>・ JET傷害保険 保険料126千円</li> </ul> <p>○ 平成25年度 事業概要(見込)【20,075千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ALTの雇用 報酬15,419千円、社会保険料2,280千円、労働保険料12千円、旅費1,267千円</li> <li>・ 自治体国際化協会負担金 負担金927千円</li> <li>・ JET傷害保険 保険料135千円</li> </ul>				
事業費 (コスト)	年 度		H23(決算)	H24(決算)	H25(見込)
	事業費(円)		30,358,702	25,371,627	20,074,732
	財源内訳	国			
		県			
		地方債			
その他					
	一般財源	30,358,702	25,371,627	20,074,732	
H24・25年度 取組状況	<p>平成24年度は、鹿屋女子高校や小・中学校に派遣するだけでなく、英語暗唱・弁論大会へ向けた生徒への指導及び大会当日の審査への協力等も行った。また、鹿屋市が作成した、外国語活動の年間指導計画に係る視聴覚教材等をALTが作成するなど、教材開発にも携わった。</p> <p>平成25年度は、昨年度の取組を踏まえつつ、週に1～2時間程度、指導法や勤務の状況等について情報交換を行う時間を設定し、指導の充実に努めた。さらに、自己評価を取り入れた指導法の改善に取り組んだ。</p>				
目標(指標)	目標名/単位	H24 (実績)	H25 (見込)	H26	H27
	ALT雇用人数/人	6 (6)	5 (5)	5 ( )	5 ( )
課題・今後の取組等	JETプログラムにより派遣されるALTは、英語教授法を専門的に学んでいないので、ALT一人一人の資質を向上させていくための研修等を実施していく必要がある。また、小学校の教員は言葉の壁から授業の打ち合わせを行うことに苦手意識をもっている。				
一次評価(自己評価)					
総合評価	A	評価理由			
		A	本事業は、県内でも全ての市町村が実施しており、生徒の英語力の向上を図り、英語教育を充実させていく上で必要である。		
		B			
		C			
D					

## 【外部評価】

(主な質疑等)

- ・各年度間の決算額の減の理由は何か。  
→AL Tの雇用者の減である。平成23年度は6人であったが、1人減じて5人体制となっているが、指導の回数を増やすなど質等は維持している。
- ・AL Tの授業は1週間に何時間が基本か。  
→1日4時間、週16時間になる。週1日はオフィスデーを設けて事務所で仕事をしている。
- ・自治体国際化協会負担金の増の理由は何か。  
→負担金の中にAL Tの渡航費が含まれているためであり、AL Tが代わった場合に増となる。
- ・現在雇用しているAL Tの1人は女子高に常駐とあるが、女子高だけでなく市内各小中学校への授業は行っていないのか。  
→女子高に常駐している者も、市内の小中学校に年間5回、1クラス当たり17回程度回れるよう計画し派遣している。

(まとめ)

- AL Tの各学校での授業時間の確保に今以上に努めてほしい。
- AL Tの授業内容の充実を図ること。

**平成24・25年度事業評価シート（教育委員会点検・評価）**

事業名	かのや英語大好き事業経費(共通)				
所管課・担当係	学校教育課 学校教育係				
教育振興基本計画 施策体系	2-(2) 国際理解教育の推進				
事業目的	(1) 児童が言語や文化に興味をもち、英語に親しもうとする態度を育てる。 (2) 児童が英語を聞いて理解する力や英語で話し伝える基礎を培う。 (3) 小学校と中学校の連携の在り方についての研究を行う。				
目的達成 のための手段 (事業概要)	<p>小学校外国語活動について、先進的に教育課程編成や指導法開発等の研究・実践を進めるため、推進校や研究校を指定し、推進校に英語指導講師を配置する。また、市内各小学校へも英語指導講師を派遣し、担任とのTT指導を行う。さらに、1学期に小学校から中学校へ、3学期に中学校から小学校へ年2回の交流授業を実施している。</p> <p>○ 平成24年度事業概要(実績) 【16,692千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語指導講師の雇用 報酬 14,220千円</li> <li style="padding-left: 20px;">共済費 1,984千円(社会保険料・労働保険料)</li> <li style="padding-left: 20px;">旅費 203千円</li> <li>・ 小学校の英語指導用教材の購入</li> <li style="padding-left: 20px;">消耗品費 192千円</li> </ul> <p>○ 平成25年度事業概要(見込) 【13,527千円】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 英語指導講師の雇用 報酬 11,376千円</li> <li style="padding-left: 20px;">共済費 1,561千円(社会保険料・労働保険料)</li> <li style="padding-left: 20px;">旅費 180千円</li> <li>・ 小学校の英語指導用教材の購入</li> <li style="padding-left: 20px;">消耗品費 140千円</li> </ul>				
事業費 (コスト)	年 度		H23(決算)	H24(決算)	H25(見込)
	事業費(円)		16,736,534	16,691,564	13,526,824
	財源内訳	国			
		県			
		地方債			
その他					
一般財源	16,736,534	16,691,564	13,526,824		
H24・25年度 取組状況	<p>平成24年度は、指導法研修会を1回実施するとともに、夏季休業中に各英語教育圏でスキルアップ研修等が開かれた。また、交流授業として、小・中学校が互いの授業を通して、指導内容や方法、児童・生徒についての研修会等を実施した。さらに、年間指導計画、ガイドブックに、具体的な言語活動活動例をを加え、活用しやすいものへと改訂した。</p> <p>平成25年度は、昨年度の取組を踏まえつつ、指導法研修会において大学教授を招聘し、小学校英語教育の動向と基本的な考え方について小学校の先生方を中心に研修を実施した。さらに、改訂した鹿屋市小学校外国語活動年間指導計画を冊子として配布することで、指導内容等の周知に努めた。</p>				
目標(指標)	目標名/単位	H24 (実績)	H25 (見込)	H26	H27
	英語大好き率/%	100 (96.4)	100 ( )	100 ( )	100 ( )
課題・今後の取組等	<p>今後は、市の指導計画、外国語活動のガイドブックの活用状況の把握と外国語指導講師・研究推進校の実践の蓄積、各英語教育圏への還元方法について改善を図ることで使いやすくするための改善を行ったりする必要がある。また、全体の研修会も初級者用と中級者用に分けて、2回行う必要がある。</p>				
一次評価(自己評価)					
総合評価	A	評価理由			
		A	<p>本事業をとおして、本市全域において小学校1年生から6年生の児童が英語に慣れ親しみ、英語を通してコミュニケーションを図る楽しさを実感しており、今後も継続して取り組むことで、さらに国際化に対応できる人材を育むことができる。</p>		
		B			
		C			
D					



## 【外部評価】

(主な質疑等)

- ・英語が小学校でも教科となるようであるが、担当教員などを細分化する必要があるのではないか。担当教員などの雇用等をどのように考えているか。  
→小学校における英語の教科化は、今後の重要な問題である。しかし具体的な専門教師等の配置等は、まだ決まっていない。
  
- ・英語圏4ブロックとはどこのことか。  
→鹿屋地区2つ、吾平地区1つ、串良地区1つである。具体的には、鹿屋地区が鹿屋小学校、西原台小学校、吾平地区が下名小学校、串良地区が細山田小学校である。鹿屋小学校は研究提携校でその他は研究推進校である。
  
- ・研究提携校と研究推進校の違いは何か。  
→研究提携校は市全体の英語学習を引っ張っていく牽引役を担い、研究推進校は研究提携校の取組を周辺の学校に周知を行い、積極的に研究会を開催するなどの役割を担う。
  
- ・小学校の英語教育について、実際児童が興味の持ちようがないと思うが、授業方法は筆記式なのかそれとも日常会話式なのか。現状ではどのような対応を行っているか。  
→小学校の英語学習では教科書を読ませる形でなく、ゲーム等体感型の学習法、ALTが教室に入り、耳から入る英語のシャワーを浴びせる形をとっている。
  
- ・高隈のカピックセンター（鹿児島県アジア・太平洋農村研修センター）を利用した国際交流体験などは考えていないか。  
→市全体で施設を利用した国際交流体験は実施していないが、現在、施設近隣の小中学校で国際交流体験学習をしている。

(まとめ)

- 英語を通じてコミュニケーションを図る楽しさをさらに充実させること。
  
- 国際交流事業などを行っている外部団体との連携も検討してもらいたい。
  
- 中学校の英語教諭を活用できないか。

平成24・25年度事業評価シート（教育委員会事務事業点検・評価）					
事業名	特別支援教育推進事業（共通）				
所管課・担当係	学校教育課・学校教育係				
教育振興基本計画 施策体系	2-（3）特別支援教育の推進				
事業目的	特別支援教育についての研修会や各種行事を開催することにより会員の資質の向上を図るとともに、特別支援教育支援員を配置することにより、特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実を図る。				
目的達成 のための手段 （事業概要）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特別支援教育支援員の配置</li> <li>○各種研修会及び行事の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学級担当者研修会</li> <li>・通級指導教室担当者連絡会</li> <li>・なかよし運動会</li> <li>・研修視察</li> <li>・なかよし遠足</li> </ul> </li> </ul>				
事業費 （コスト）	年 度		H23（決算）	H24（決算）	H25（見込）
	事業費（円）		31,745,281	31,543,071	41,070,618
	財源内訳	国			
		県			
		地方債			
		その他			
一般財源	31,745,281	31,543,071	41,070,618		
H24・25年度 取組状況	<p>特別支援教育支援員の配置については、各学校における児童生徒の実態及び課題等に応じて適切な配置に努めており、平成24年度は20人（平成23年度より支援員3人増）の支援員を17校に配置した。児童生徒の命の安全及び個別の指導計画・支援計画等に基づいた指導の充実を図るために17校中3校には2人の配置を行った。</p> <p>平成25年度は、23人（平成24年度より支援員3人増）を17校に配置した。また、各学校の課題等を十分に精査した上で、17校中6校に2人の配置を行った。</p> <p>今後も各学校において特別な支援を必要とする児童生徒は増加傾向にあり、課題等を十分に把握しながら適切な配置に努めていく必要がある。</p>				
目標（指標）	目標名／単位	H24 （実績）	H25 （見込）	H26	H27
	学校数に対する支援員配置校数（配置率） ／％	50 （39）	50	60	60
課題・今後の取組等	特別支援教育の充実については、国及び県の基本的政策であり、本市においても喫緊の課題である。障害者基本法の一部改正もあり、支援員の配置についてのニーズは大きくなることが予想される。特別支援教育に関する教職員の研修の充実と支援員配置についてはさらに充実させる必要がある。				
一次評価（自己評価）					
総合評価	B	A	評価理由		
		B	特別支援教育の現状や課題に応じた研修会が計画的に実施できた。		
		C	特別支援教育支援員については、各学校の現状を適切に把握し、配置を進める必要がある。		
		D			

## 【外部評価】

(主な質疑等)

- ・一人ひとりの児童生徒の命を大事にしている事業であると感じる。生命に係る事故等（交通事故、水難事故、落下事故等）が予想される子どもへの支援を基本に考えている事業だと思う。
- ・対象児の認定と支援員の配置状況はどうか。  
→認定方法は、就学指導委員会での判断で認定される。支援員の配置方法は、特に対象児の介助を想定して配置している。対象児の行動が発作的に命を脅かす危険な行動（高所や水溜まりへ向かう等）をとるため、命を最優先にした配置を行っている。特に重い障害をもつ児童に対しては、1人特別に配置している。
- ・対象児の保護者が望んで特別支援学級に入れる場合があるか。  
→インクルーシブ教育（障害を持つ児童生徒とそうでない児童生徒と一緒に学習活動すること。）の視点から、保護者の気持ちを聞いて行っている。保護者との合意形成が必要である。
- ・利用者が増加傾向であるが、支援員配置の基準は満たされている状況か。  
→年々要望は増えている状況である。対象児は本当に支援が必要なのかを判断するために現場の教員のスキルアップ（判断能力向上）も重要である。

(まとめ)

- 特別支援が必要な児童生徒にとって重要な事業であるため、もっと支援員の配置率向上を図ってほしい。
- 対象児は本当に支援が必要なのかを判断するため、現場教員の判断能力向上のための方策も検討してほしい。

## 平成24・25年度事業評価シート（教育委員会点検・評価）

事業名	教育改革推進事業				
所管課・担当係	教育総務課 教育改革係				
教育振興基本計画 施策体系	4-(1) 学校規模適性化(学校再編)の推進				
事業目的	児童生徒数の減少に対応し、学校教育環境の改善を図るため、小中学校の統廃合による学校の再編を推進する。				
目的達成 のための手段 (事業概要)	<p>「鹿屋市学校再編実施計画」(平成23年6月策定)に基づき、市内小中学校の適正配置及び適正規模を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続検討地区(高隈、高須・浜田、大始良、吾平、串良)の協議推進</li> <li>【高隈地区】 …………… 2小学校:高隈小、大黒小、1中学校:高隈中</li> <li>【高須、浜田地区】 …… 2小学校:高須小、浜田小、1中学校:高須中</li> <li>【大始良地区】 …………… 1小学校:南小</li> <li>【吾平地区】 …………… 1小学校:鶴峰小</li> <li>【串良地区】 …………… 3中学校:串良中、上小原中、細山田中</li> </ul> <p style="text-align: center;">計 <b>6小学校 5中学校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内有識者等における学校規模適性化についての協議 (学校規模適性化検討委員会開催)</li> <li>・地区懇話会、学校統合推進委員会、専門部会による再編に向けた具体的な協議推進</li> </ul>				
事業費 (コスト)	年 度	H23(決算)	H24(決算)	H25(見込)	
	事業費(円)	26,565,238	206,456	167,413	
	財源内訳	国	0	0	0
		県	0	0	0
		地方債	0	0	0
その他		0	0	0	
一般財源	26,565,238	206,456	167,413		
H24・25年度 取組状況	<p style="color: red;">平成24年度においては、平成25年4月開校に向けた花岡地区小中一貫校及び吾平地区における吾平小と神野小の統合に係る具体的な取組み(施設整備等)と共に、その他継続検討地区においては、それぞれで、学校・地域・保護者により協議、検討する期間を設け、平成25年3月末、各地区毎に地域意見の集約結果について報告を受けたところである。また、平成25年4月には、当初計画どおり小中一貫校花岡学園開校。同じく、吾平地区でも吾平小、神野小が統合したところである。その他継続検討地区においては、現在、集約された地域意見の取扱い等含め、今後の学校再編の取組みについて、継続して協議、検討しているところである。</p>				
目標(指標)	目標名/単位	H24 (実績)	H25 (見込)	H26	H27
	小中学校数	41 (41)	38	38	34
課題・今後の取組等	<p>平成24年度に地域で十分協議検討された集約結果と併せ、平成25年度における対象地域等からの学校存続に係る要望、陳情等の取扱いも含め、地域・保護者への理解、協力等課題は残るが、本計画の目的に基づき、今後も、児童生徒のよりよい教育環境の整備を図ることを基本として、引き続き、小中学校の学校再編へ取り組んでいくこととする。</p>				
一次評価(自己評価)					
総合評価	B	評価理由			
		A	<p>H23.6月策定した「鹿屋市学校再編実施計画」に基づき、H25.4月には、花岡地区における小中一貫校開校。併せて、吾平地区においても吾平小と神野小が統合した。また、継続検討地区としたその他の地区においても、学校、地域、保護者により地域で十分協議検討する期間を設け、最終的に平成25年3月、地域で取りまとめられた意見の結果報告があったところである。</p>		
		B			
		C			
D					

## 【外部評価】

### (主な質疑等)

- ・学校再編に関する説明会が各地域で行われるが、地域住民の声が強すぎる状況である。PTAからの参加者が少ない。小規模校は地域住民が参加しないと学校運営ができない状況である。  
→保護者の意見が少ないようであるため、保護者の意見を聞く場を設けていきたい。
- ・シビアな問題であり、学校再編問題で個人的に誹謗中傷を受けている方もいるとのことから、そのような方のケアが必要ではないか。  
→学校再編を進めていく上で、地域が割れるのが最も切実な問題である。事業推進には十分検討して進めていく。
- ・PTAの女性の方などは、本音の意見が言えない。
- ・現在、再編対象の学校へはアンケート調査は実施したのか。  
→それぞれの地域で独自にアンケート調査を実施している。  
ちなみに、串良地区では、各中学校区ごとにアンケート調査を実施している。

### (まとめ)

- 学校再編の事業推進には、地域住民の理解が大変重要であることから、地域と十分協議を重ね、検討し、事業を進めてほしい。

**平成24・25年度事業評価シート（教育委員会点検・評価）**

事業名	公民館等各種講座経費(共通)				
所管課・担当係	生涯学習課 中央公民館				
教育振興基本計画 施策体系	5-(3) 学習推進体制の充実				
事業目的	中央公民館を中心とする生涯学習の推進を図る				
目的達成 のための手段 (事業概要)	<p>中央公民館外12館において生涯学習の推進を図るため、各種講座を実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民講座</li> <li>・短期講座</li> <li>・転勤奥様講座</li> <li>・高齢者大学</li> </ul> <p>組織再編に伴い、平成25年度より鹿屋、吾平、輝北、串良の講座経費を事業統合を行った</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中央公民館各種講座に要する経費(鹿屋)</li> <li>・地区学習センター等各種講座に要する経費(鹿屋)</li> <li>・公民館各種講座に要する経費(吾平)</li> <li>・公民館各種講座に要する経費(輝北)</li> <li>・公民館各種講座に要する経費(串良)</li> </ul>				
事業費 (コスト)	年 度		H23(決算)	H24(決算)	H25(見込)
	事業費(円)		794,842	665,728	7,544,000
	財源内訳	国			
		県			
		地方債			
その他		242,000	242,000	1,597,000	
	一般財源	552,842	423,728	5,947,000	
H24・25年度 取組状況	実施講座	H24	H25		
	・市民講座	13講座	107講座		
	・短期講座	16講座	153講座		
	・転勤奥様講座	1講座	1講座		
	・高齢者大学	1講座	12講座		
目標(指標)	目標名/単位	H24 (実績)	H25 (見込)	H26	H27
	受講生/人	870 ( 920 )	4,769	4,800	4,900
課題・今後の取組等	各種講座の実施は、生涯学習の根幹である事からも講座を充実する必要があるが、交付税等財源が削減されるなか、各館でニーズに合った講座を実施するための工夫を行い、生涯学習の推進を図る。				
一次評価(自己評価)					
総合評価	A	評価理由			
		A	前年度より講座数が削減されたが、各館それぞれに工夫した講座等を実施し、前年度並みの講座生が学習でき、生涯学習の推進をいっそう図ることができた。		
		B			
		C			
D					

## 【外部評価】

(主な質疑等)

- ・それぞれの地区で行っていた講座を統一して中央公民館で行うのか。  
→従来どおりそれぞれの地区で行う。
- ・公民館の各種講座について、地区の文化祭で展示発表が行われており非常に評判がいい。ちぎり絵、トールペイントなど講座ごとで人気、不人気が出てくると思うが、もし人気講座で定員がオーバーした場合はどのように対応しているのか。  
→講座申込の段階で初めて参加する人を優先している。その講座に対して経験豊かな人が何人か集まって同好会を作っている。現在 312 の同好会グループを作っているため、もし定員オーバーの場合はそちらを案内している。
- ・講座生の募集は難しいと思うが、講座生を増やすための方策として何か新たな取組は考えていないか。  
→現在ある 13 の公民館等の館長会議でも同様のことが話し合われた。今後は、後継者育成も必要である。館どうして色々な情報交換を行い、講座の充足率向上のための取組も一つの方策だと考えているので検討したい。

(まとめ)

- 市民のニーズや現代的な課題を解決するための新たな講座等を開設するなど、今まで以上に各講座の内容の充実を図ってほしい。

**平成24・25年度事業評価シート（教育委員会点検・評価）**

事業名	かのや学校応援団事業				
所管課・担当係	生涯学習課 社会教育係				
教育振興基本計画 施策体系	5-(4) 地域・学校・家庭が連携した教育の充実				
事業目的	<p>地域全体で学校教育活動を支援することを通して、地域の教育力の向上を図るとともに学校・地域が一体となった教育の推進を図る。</p> <p>①地域支援による学校教育の充実(子どもの課題の解決)                  ②生涯学習社会の実現(ボランティアの生涯学習成果の還元)                  ③地域の教育力の向上(学校を核とした地域のつながりの強化)</p>				
目的達成 のための手段 (事業概要)	<p>1 実施校                  ・平成24年度 14モデル校                  ・平成25年度 小中学校(38校)全校実施</p> <p>2 推進体制                  ・中学校区に地域支援本部の設置(条例公民館・学習センター)                  ・各本部にコーディネーターの配置(館長・社会教育指導員・専門指導員)                  ・地域教育協議会の開催(地区生涯学習推進協議会への位置付け)</p> <p>3 運営についての研究                  ・平成24年度モデル校14校における指導計画や学校体制の研究                  ・コーディネーターの事業運営についての研究</p> <p>4 関係者の運営に係る資質向上                  ・モデル校連絡会の実施                  ・コーディネーター研修会の実施                  ・専門講師等による検証と指導助言</p> <p>5 運営内容についての整理と周知                  ・研究誌・実践事例集の作成と教職員・関係者への配布</p>				
事業費 (コスト)	年 度		H23(決算)	H24(決算)	H25(見込)
	事業費(円)		1,021,219	744,012	744,012
	財源内訳	国			
		県			
		地方債			
その他					
一般財源	1,021,219	744,012	744,012		
H24・25年度 取組状況	<p>①地域支援本部11か所設置(条例公民館・学習センター)                  ②コーディネーター13名配置(館長・社会教育指導員・専門指導員)                  ③地域団体との連携(健康づくりフォーラム・緑のカーテン・鹿児島大)                  ④研修会の実施                  ・モデル校連絡会4回・コーディネーター研修会7回・学校管理職研修会2回                  ⑤「かのや学校応援団ガイドブック」作成                  ⑥支援内容 学習補助(生活科 家庭科 音楽 図工 総合的な学習の時間 書写 特活等)                  安全管理(校外活動引率等) 環境整備(奉仕作業 行事設営等)</p>				
目標(指標)	目標名/単位	H24 (実績)	H25 (見込)	H26 (見込)	H27 (見込)
	支援時間/時間	1220	2712	4000	4000
課題・今後の取組等	<p>平成25年度より市内小中学校全校実施となり、コーディネーターの担当校数が増えたため、館長兼務の場合は事務量上、学校のニーズに対応できない場合も出てきた。コーディネーターの配置やボランティア確保などの工夫が必要である。</p>				
一次評価(自己評価)					
総合評価	A	評価理由			
		A	平成24年度はモデル校14校で1200時間を超える支援活動ができた。同時に実践事例も収集でき、予定通りガイドブックの作成と教職員・関係者への配布もできた。		
		B	平成25年度は全校実施となり、学校の意識も高くなっている。コーディネーターの研修も主体的になりつつあり、課題もあるが、何より、学校や児童生徒、学校支援ボランティアの方々から高い評価を受けている。		
		C			
		D			



## 【外部評価】

(主な質疑等)

- ・この事業は、地域人材の発掘にも繋がり、地域にも貢献できる事業でもあると思う。  
→今まで各学校で授業以外の活動（しめ縄づくりや門松づくり等）を細々で行っていたが、今はこの事業により地域住民のボランティアで行えるようになってきている。鹿屋は他の自治体と異なり中学校区ごとに地区公民館があるので、事業展開しやすい。もっとこ入れしていきたい。
- ・学校教育との連携について、授業のカリキュラムに入れるなどしたらどうか。  
→現在、学校教育のカリキュラムに取り入れている。
- ・小・中・高の書写授業について、特に小学校の場合、担任が不慣れの為、以前、市内高校の書写担当教師が一斉授業したことがある。今まで書けなかった子供が授業を受けることによって、その後の人生が変わることもあり、高校書写担当教師を積極的に使ってほしい。

(まとめ)

- 各学校が要請する授業以外の活動内容を全て行うのではなく、市全体で1つに絞り込んで行うことも大事ではないか。
- 地域人材の掘り起こしも行いながら、学校応援団事業の推進が望ましい。

平成24・25年度事業評価シート（教育委員会事務事業点検・評価）					
事業名	ふるさとかのやを誇れる人づくり事業				
所管課・担当係	教育委員会 生涯学習課 文化財センター				
教育振興基本計画 施策体系	8-(2) 文化財の保存・活用・継承				
事業目的	郷土の恵まれた自然の中に息づく歴史資料についての文化財展示や、公開を実施し、広く市民の理解と関心を深めるとともに、未来を担う子どもたちを対象に文化学習を実施し、郷土愛の醸成を図る。				
目的達成 のための手段 (事業概要)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財体験学習の実施(文化財ウォッチング、文化財たんけん隊)</li> <li>・移動展示会の実施(考古展・民俗資料展)</li> <li>・文化財出前授業、出前講座の実施</li> <li>・埋蔵文化財リーフレット・かのや歴史探訪リーフレット作成</li> <li>・イベント時の文化財体験ブース</li> </ul>				
事業費 (コスト)	年 度		H23(決算)	H24(決算)	H25(見込)
	事業費(円)			1,149,470	1,156,975
	財源内訳	国			
		県			
		地方債			
		その他			
一般財源			1,149,470	1,156,975	
H24・25年度 取組状況	<p>(H24)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財ウォッチング33名</li> <li>・文化財たんけん隊 計86名(鹿屋21名、吾平25名、輝北22名、串良18名)</li> <li>・移動考古展(中尾地下式横穴墓の世界展)市内学習センターを巡回</li> <li>・特別展 リナシティかのや</li> <li>・移動民俗資料展 輝北祭りでの特別展</li> <li>・ヒメとヒコ公演 847名参加(3回公演)</li> </ul> <p>(H25)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財ウォッチング18名</li> <li>・文化財たんけん隊 計65名(鹿屋24名、吾平14名、輝北13名、串良14名)</li> <li>・移動民俗資料展(田の神像展、昭和30年代写真展)市内学習センター等を巡回</li> <li>・出前授業13校17回、出前講座15回</li> <li>・イベント体験ブース出展(ばら祭り、図書館祭り、吾平町農業祭、串良二十三や市、輝北まつり等)</li> <li>・ヒメとヒコ公演(平成26年2月予定)</li> </ul>				
目標(指標)	目標名/単位	H24 (実績)	H25 (見込)	H26	H27
	文化財体験学習参加者数/人	110 (126)	110 (83)	110	110
課題・今後の取組等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財たんけん隊については、子どもにも理解しやすい資料の作成やルートの選定を検討していく必要がある。</li> <li>・夏休み体験学習において周知・広報・募集の時期・方法に改善の余地がある。</li> <li>・一般市民からの文化財ツアーの要望が強いことから、テーマを検討しながら内容を計画する必要がある。</li> </ul>				
一次評価(自己評価)					
総合評価	B	評価理由			
		A	次代を担う子どもたちの文化財愛護思想の高揚、市民への文化財の展示・公開の実施により、理解と関心を深めることができている。		
		B			
		C			
		D			

## 【外部評価】

### (主な質疑等)

- ・夢ではあるが、大隅全域の文化財を一カ所に集めて歴史民俗村のようなゾーンができれば素晴らしいと考えるが、どうか。  
→現在、文化財への理解、地域への愛着を深めることを目的に、文化財出前授業・講座などを行い、また、色々な機会を得て広く文化財について情報発信を行っている。大隅全域の文化財を一カ所に集めて「歴史民俗村ゾーン」という発想は素晴らしいことであるので、今後、環境づくりの勉強をしていきたい。
  
- ・小中学校の児童生徒を対象とした夏休み期間中の文化財体験学習に、教職員の参加などは考えていないか。  
→本年度、教職員については、文化財研修に2校の参加があった。

### (まとめ)

- 文化財学習の視点から良い事業であることから、今後も関係機関等と連携をとりながら事業を推進してほしい。
  
- 教職員が体験学習等に参加すると児童・生徒の参加にもつながるので、連携を深めてほしい。

**平成24・25年度事業評価シート（教育委員会点検・評価）**

事業名	生涯スポーツ推進事業(鹿屋)				
所管課・担当係	市民スポーツ課 市民スポーツ係				
教育振興基本計画 施策体系	9-(1) スポーツ活動の推進				
事業目的	広く市民スポーツ・レクリエーションについての理解と関心を深め、積極的にスポーツをする意欲を高揚する行事を行うことにより、市民の心身の健全な発達と明るく豊かな市民生活の形成に寄与する。				
目的達成 のための手段 (事業概要)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スポーツフェスタinかのや <ul style="list-style-type: none"> <li>・グラウンド・ゴルフ交流大会</li> <li>・バドミントン交流大会 外4種目</li> </ul> </li> <li>○小学校区対抗「かのやローズヒル」駅伝大会 <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小学校全域対象(25校)</li> </ul> </li> <li>○スポーツ講習会</li> <li>○総合型地域スポーツクラブ活動事業補助金</li> </ul>				
事業費 (コスト)	年 度		H23(決算)	H24(決算)	H25(見込)
	事業費(円)		5,145,839	5,209,274	4,675,000
	財源内訳	国			
		県			
		地方債			
その他					
一般財源	5,145,839	5,209,274	4,675,000		
H24・25年度 取組状況	<p>《平成24年度》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○スポーツフェスタinかのや 参加者数1,517人 9種目(ソフトバレー、テニス、卓球、バドミントン、水泳、サッカー、グラウンド・ゴルフ、バスケット、少年団交歓大会)</li> <li>○小学校区対抗「かのやローズヒル」駅伝大会 (23チーム)参加者数400人</li> <li>○スポーツ講習会 (21人)</li> <li>○総合型地域スポーツクラブ活動事業 (補助金3,500,000円) (16種目 30コース 延べ20,065人)</li> </ul> <p>《平成25年度》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○スポーツフェスタinかのや 参加者数781人 6種目(テニス、卓球、バドミントン、水泳、サッカー、グラウンド・ゴルフ)</li> <li>○スポーツ少年団交歓大会 参加者数167人</li> <li>○小学校区対抗「かのやローズヒル」駅伝大会 (21チーム)参加者数361人</li> <li>○スポーツ講習会 (95人)</li> <li>○総合型地域スポーツクラブ活動事業 (補助金3,200,000円) (16種目 29コース 延べ約20,000人)</li> </ul>				
目標(指標)	目標名/単位	H24 (実績)	H25 (見込)	H26	H27
	スポーツクラブ活動種目数/種目	28	29	30	30
	スポーツクラブ会員数/人	3,049	2,691	3,000	3,000
	スポーツフェスタ種目数/種目	9	6	6	6
	スポーツフェスタ参加者数/人	1,517	781	1,000	1,000
課題・今後の取組等	鹿屋市が目指す生涯スポーツ社会の実現に向けた事業に取り組んでいるが、さらに生涯スポーツ振興を充実させることから、事業内容の見直しが課題である。また、総合型地域スポーツクラブ事業については、これまでの事業内容を検証し、市民がより手軽にスポーツへ参加でき、親しめることができる環境の整備に努める必要がある。				
一次評価(自己評価)					
総合評価	A	評価理由			
		A	国のスポーツ基本法に基づき、本市でも生涯にわたって、市民の健康づくり・生きがいづくりにスポーツの果たす役割は大きく、今後も生涯スポーツの振興を図っていく必要がある。		
		B			
		C			
D					

## 【外部評価】

### (主な質疑等)

- ・スポーツ少年団について、小中学校の児童生徒数は減少、部活動も減少する状態であり、増える状況ではないと思うが。  
→現状では、スポーツ少年団1チーム当たりの団員数が減ってきている。
- ・スポーツ少年団の活動は、週2～3回程度で1日の活動は日没までとしているため、時間的に活動は難しい状況である。練習時間等の活動環境も考えてほしい。  
→スポーツ少年団は、青少年の健全育成を目的とし、競技力向上を目的とする近年のスポーツクラブとはもともと性格が異なる。練習時間など、活動内容に一定の制約があることは御理解いただきたい。  
しかし、近年は、青少年のスポーツ活動の場が、スポーツ少年団から、スポーツクラブや民間のスポーツ施設提供事業所の教室に流れる傾向にあり、御指摘のスポーツ少年団の活動の環境などについては、今後、勉強していきたい。
- ・市民が、生涯を通じてスポーツに参加できる場を充実してほしい。  
→週に1回以上スポーツを行う者の割合について、国は65%を目標に掲げているが、本市は平成23年度で39.1%であり、引き上げのための対策が必要と考えている。

### (まとめ)

- 民間のスポーツクラブは、学童保育も行い、保護者のニーズに合わせた活動を行っている。会員数の減少などにより、スポーツ少年団はあり方を再確認する時期にきていることから、その特性を活かして活性化を図るとともに、スポーツクラブ等との棲み分けや連携を進め、一層の青少年育成に取り組んでほしい。
- スポーツ実施率を高めるため、一般市民が、スポーツを楽しむ機会の充実を図ってほしい。

**平成24・25年度事業評価シート（教育委員会点検・評価）**

事業名	スポーツ施設設備整備事業					
所管課・担当係	市民スポーツ課 運動施設係					
教育振興基本計画 施策体系	9-(2) スポーツ施設の整備・充実					
事業目的	市民が安全・安心に利用できる各種スポーツ施設を整備し、競技力向上やスポーツ交流の拡大を図る。					
目的達成 のための手段 (事業概要)	<p>多様化・高度化する市民のスポーツニーズに対応するため、各種スポーツ施設、用具、備品等を整備充実し、競技力向上やスポーツ交流の拡大及び利用者の安全性の確保を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各種スポーツ施設の修繕・工事</li> <li>○体育備品等整備</li> <li>○体育館耐震調査(H24年度)</li> </ul>					
事業費 (コスト)	年 度		H23(決算)	H24(決算)	H25(見込)	
	事業費(円)		16,684,250	14,961,775	13,729,882	
	財源内訳	国	0	0		
		県	0	0		
		地方債	0	0		
		その他	0	0		
一般財源	16,684,250	14,961,775	13,729,882			
H24・25年度 取組状況	<p>各種スポーツ設備の整備を行い施設機能充実に努めた。</p> <p>《平成24年度》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○輝北体育館雨漏り修繕 外7件</li> <li>○串良平和アリーナ バスケットコートライン改修工事 外1件</li> <li>○各種備品購入(プールコースロープ 外9件)</li> <li>○鹿屋市体育館耐震診断 外1件</li> </ul> <p>《平成25年度》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中央公園水泳プール土間修繕 外20件</li> <li>○平和公園陸上競技場周辺伐採業務委託 外1件</li> <li>○各種備品購入(プールクリーナー 外9件)</li> </ul>					
目標(指標)	目標名/単位		H24 (実績)	H25 (見込)	H26	H27
	スポーツ施設利用者数		491,231	478,680	510,000	510,000
課題・今後の取組等	<p>スポーツ施設の老朽化等に伴う、修繕等が多くなっており、今後大規模な改修や設備更新が必要である。そのため市内の全スポーツ施設を対象とした「鹿屋市スポーツ施設再配置計画(仮称)」を策定し、施設整備の在り方などを検討していく。</p>					
一次評価(自己評価)						
総合評価	A	評価理由				
		A	市民のスポーツニーズに対応するため、施設の整備、用具の購入など、市民が安心・安全に施設を使用できるよう整備を行った。			
		B				
		C				
		D				

## 【外部評価】

### (主な質疑等)

- ・老朽化している施設について、安全安心の面から早急に改善に取り掛かってほしい。
  
- ・現存する屋外の屋根付競技施設利用は、梅雨時は順番待ちをしている状況であるため、学校再編により閉校となった学校の体育館を競技施設として利活用できないか。具体的に体育館の床を剥がし、人工芝を張るなどの改良を加えて利活用できないか。  
→学校再編に伴い閉校した学校施設等の利活用については、持ち帰って検討する。
  
- ・幼稚園等で行事を行う際、市が所管する競技施設等を使用したいが、競技施設等の空き状況についての確認に苦慮している状況であるため、空き状況を案内してもらえないか。  
→現状として、市町村合併後、施設利用料等の統一ができていない状況であるため、施設等の予約の統一した仕組の構築を検討中である。来年度から段階的に統一していくので、構築するまでの間は、利用の手続きの周知・広報に努めたい。
  
- ・一番利用者の多い競技施設は何か。  
→陸上競技場が3万人、グラウンドゴルフ場が6万人、串良アリーナが4万1千人、体育館が4万6千人である。

### (まとめ)

- 利用者の安全安心の面から、老朽化している競技施設の早急な改修、修繕を図ってほしい。
  
- 屋外屋根付施設の拡充を図ってほしい。
  
- 一般市民がスポーツに親しむ機会を増やすため、屋外照明施設の拡充を図ってほしい。

### III 資料



# 鹿屋市教育振興基本計画施策体系図

(基本理念)

(基本目標)

(施策の方向性)

(施策)

21世紀を生きぬく子どもたちに生きる力をはぐくむ

知・徳・体を調和的にはぐくむ教育の創造

創造性と豊かな心をはぐくむまちづくり

1 豊かな心と健やかな体をはぐくむ教育の推進

- (1) 道徳教育の充実
- (2) 生徒指導の充実
- (3) 人権教育の充実
- (4) 体験活動の充実
- (5) 読書活動の推進
- (6) 食育の推進
- (7) 健康教育の充実
- (8) 体力・運動能力の向上

2 次代を生きぬく学力や資質をはぐくむ教育の推進

- (1) 確かな学力の向上
- (2) 国際理解教育の推進
- (3) 特別支援教育の推進
- (4) 情報教育の推進
- (5) 環境教育の推進
- (6) キャリア教育の推進
- (7) 郷土教育の推進
- (8) 幼児教育の充実

3 信頼される学校づくりの推進

- (1) 学校経営の充実
- (2) 教職員の資質向上
- (3) 開かれた学校づくり
- (4) 安全・安心な学校づくり
- (5) 市立高等学校の活性化

4 安全・安心な教育環境と教育活動の充実を目指した教育改革の推進

- (1) 学校規模適正化(学校再編)の推進
- (2) 学校施設耐震化の推進

5 心豊かな人間性を培う生涯学習の推進

- (1) 学習環境の整備
- (2) 学習機会の充実
- (3) 学習推進体制の充実

6 心の豊かさと学ぶ意欲にあふれる社会教育の充実

- (1) 成人教育の充実
- (2) 青少年健全育成への支援
- (3) 家庭教育の充実

7 人権を尊重する平和な社会の実現

- (1) 人権教育の啓発と推進

8 文化の香り高い心豊かなまちを目指した市民文化の振興

- (1) 文化芸術活動の促進と環境づくり
- (2) 文化財の保存・活用・継承

9 生涯スポーツ社会の実現

- (1) スポーツ活動の推進
- (2) スポーツ施設の整備・充実
- (3) スポーツ交流の推進

## 鹿屋市教育委員会外部評価委員会設置要綱

### (設置)

第1条 鹿屋市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する点検評価の客観性及び透明性を確保するとともに、簡素かつ効率的な教育行政運営の推進について、外部の意見を求めるため、鹿屋市教育委員会外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

### (所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 教育委員会が実施した事務事業について、外部の視点から評価を行い、教育委員会に評価結果を報告すること。
- (2) 教育委員会所管の点検評価システムの構築及び運営について、必要な事項を協議し、教育委員会に意見を述べること。
- (3) その他委員会が必要と認める事項

### (組織)

第3条 委員会は、委員5人以内で組織し、教育行政の運営及び点検評価について優れた見識を有する者うちから教育委員会が委嘱する。

### (任期)

第4条 委員の任期は、委嘱した日の属する年度の末日までとする。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

### (委員長及び副委員長)

第5条 委員会に、委員長及び副委員長を置く。

2 委員長は委員の互選により定め、副委員長は委員のうちから委員長が指名する。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

### (会議)

第6条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員会の会議に委員以外の者の出席を求め、説明若しくは意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

### (庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育委員会教育総務課において処理する。

### (その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

## 附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。